

【中学年推奨】SNS教育プログラム レッスン2（ユニット3）学習指導案

1 単元名 情報の取扱いについて考える

2 ユニット名 「ほんとうかな？」

3 本時のねらい

- (1) 情報の中には、正しいものだけではなく、間違ったものや不確実なものなどがあることを理解する。
- (2) インターネット上の情報を安易に信用せず、疑いを持つことができる。

4 本時の展開

構成	学習活動	指導上の留意点
導入	発問1：どんなところから最近のニュースや出来事などの情報を得ていますか。 例)・テレビ、インターネット、新聞、スマートフォン、家族、友人等	- 様々な媒体から情報が得られることを確認する。 - 特定のニュースを例示するなどして幅広く発言を募り、複数の情報源を引き出す。
展開	○めあてや場面に関する説明を聞き、状況を理解する。 「あなたのタブレット（スマートフォン）に、今まで見たことのないアドレスから次のメッセージが届きました。」 きんきゅう連絡 今日の夕方5時、〇〇市の△△（場所）に、 人気アイドルグループの□□がやってきます！ たくさんの参加者をぼしゅうしているため、 周りの人にも今すぐ伝えてください。 □□のマネージャーより 発問2：あなたは、このメールが届いたらどうしますか。 ○ワークシートに、自分の考えと理由を書く。 ○グループ内で話し合った後、全体で共有する。 例)・今すぐ伝えてくださいとあるので、周りの人に教える。 ・自分では判断できないので、どうすればいいか周りの人に相談する。 ・送信元が怪しいので、そのままにする。	- めあて「受け取ったメッセージについて考えよう」 - ICT機器等を用いてメッセージ画像を提示し、場面をイメージさせる。 - 送信元は「今まで見たことのないアドレス」である。 - 話し合いをとおして、情報をすぐに信用してしまうことの危険性に気付かせる。 - 情報の真偽を確かめるためには、どうすればよいか考えさせる。
まとめ	○本時のまとめと振り返りを行う。 真偽のはっきりしない情報は安易に信用してはならないことを理解する。 例)・怪しい情報はすぐに信じない。 ・いろいろな方法で調べてから判断したり、大人に相談したりする。	自分の考えの変容や強化、再認識という視点も踏まえる。

5 指導の手引き

構成	学習の流れ	教師の発問・指示等
導入	情報の入手ツールを問うことで、情報の発信源に対する注意をひく。	どんなところから最近のニュースや出来事などの情報を得ていますか？ このニュース（特定のニュースを示す）をどうやって知りましたか？
	様々な媒体から情報を得ていることを確認する。	私たちは、様々なところから情報を得ていますね。
展開	めあて「受け取ったメッセージについて考えよう」を確認するとともに、本時の場面設定やメッセージ内容を理解する。	メッセージを受け取ったときのことを考えていきましょう。あなたのタブレット（スマートフォン）に、今まで見たことのないアドレスから次のメッセージが届きました。
	発問について、自分ならどうするかを考える。 自分の考えとそうように考えた理由をワークシートに記入する。	あなたは、このメッセージが届いたらどうしますか？ 自分の考えとそうように考えた理由をワークシートに書いてください。
	隣同士や班で、自分の考えと理由を発表し、意見交換をする。	ワークシートに書いた考えを（隣同士・班）で発表し、意見交換してください。
	学級で意見を共有する。 班の代表者、任意の指名された児童等が発表する。	考えと理由を発表してください。 (予想される反応) ・周りの人に教える。会えたら嬉しいと思うから。 ・本当かどうか確かめる。偽の情報の可能性もあるから。 ・そのままにする。本当かどうかわからないから。 など
	発表内容を聞き、当初の自分の考えからの変容や強化について考える。 情報の真偽を確かめる方法について理解する。	発表を聞いてどう感じましたか？当初の考えから変化があった人はいますか？ 正しい情報かどうかを確かめる方法として、例えば次のような方法があります。 正しい情報かどうか確認する方法 ① 発信しているのは誰か（情報源が信頼できるか） ② 他のメディアがどう報道しているか（複数の情報源の確認） ③ 文章の表現に注意する（あいまいな表現、断定していない等） 参考：総務省情報通信白書 forKids NHKforSchool「フェイクニュースを見抜くには」 警視庁「疑わしい情報に惑わされないために」
	☆補助的な発問や活動 （時間配分等に応じて） 補助発問について考える。 任意の指名された児童等が発表する。	このメッセージは本当だと思いますか？本当かどうかはどうやって確認すればよいと思いますか？ （任意の児童を指名し、発表してもらい、学級で共有する。その後、上記の真偽を確かめる方法について伝える。）
まとめ	真偽不明の情報を安易に信用してはならないことを理解する。	例）情報はすべて正しいとは限りません。本当に正しい情報なのか確認することが大切です。
	「今後同じような情報を受け取ったときにどうするか」を含んだ振り返りを書く。	今後、同じように正しいかわからない情報を受け取ったときどうしますか。今日の学習で考えたこと、感じたことも含めて、振り返りに書きましょう。

6 実践するにあたって

(1) 概要

- ・ 多くの情報の中には、間違った情報や不確実な情報なども混じっているため、その情報をすぐに信用するのではなく、疑いを持つことが大切である。
- ・ 情報の真偽を確かめるためには、他の人への確認や、様々な情報源から得た複数の情報の照合などをおして、総合的に判断することが必要である。本教材はそのような情報リテラシーについて考える端緒を与えるものである。

(2) 指導の方向

- ・ 既にスマートフォンやPC、ゲームのチャット機能等で、様々な真偽不明の情報を受け取った経験を持つ児童もいることが想定される。
- ・ インターネットでは、誰でも匿名で自分の好きなように情報を発信することができるため、信憑性に欠ける情報も多く公開されている。したがって、特にインターネットを経由して得られた情報については、そのまま鵜呑みにするのではなく、複数の情報を照合し、総合的に判断する必要があることに気付かせたい。
- ・ 真偽不明な情報を得たときに安易に信用するのではなく、適切な行動や判断がとれるよう、本教材をとおして情報モラルやリテラシー能力を高めたい。

(3) 工夫すると良い点

- ・ 発問2について、素直な気持ちや親切心から「周りの人に伝える」と考える児童も想定される。その場合は、児童の心情は承認しつつも、安易に情報を信用してしまうことの危険性を適切に伝える必要がある。
- ・ 不確実な情報の拡散が、深刻な事態をもたらしたり、誰かを傷つけたりすることがあるということを、卑近な例を用いて説明してもよい。
- ・ 場面設定にある、届いたメッセージの空白の部分（〇〇、△△、□□の部分）は、児童の実態等に応じて具体的な名称等を挿入する。
- ・ 題材となるフェイクニュースについては、児童の実態や時事等に応じて変更してもよい（不審者情報や学級閉鎖、チェーンメール等）。ただし、その際には児童に恐怖感を植え付けることのないように配慮する必要がある。

7 参考 URL

- ・ 総務省：情報通信白書 forKids
<https://www.soumu.go.jp/hakusho-kids/>
- ・ NHKforSchool：フェイクニュースを見抜くには
<https://www.nhk.or.jp/school/>
- ・ 警視庁：疑わしい情報に惑わされないために
<https://www.keishicho.metro.tokyo.lg.jp/kurashi/cyber/joho/truth.html>

レッスン2-3

ほんとうかな？

- ◆あなたは、じょうほうを知りたいときに
どんなものをつかっていますか？
たくさんあげてみよう！

ねん くみ ばん
なまえ

- ◆あなたのタブレット（スマートフォン）に、今まで見たことのないなまえから
次のメッセージがとどきました。

きんきゅう連絡

今日の夕方5時、〇〇市（町）の△△（場所）に、
人気アイドルグループの□□がやってきます！

たくさんの参加者をぼしゅうしているため、
周りの人にも今すぐ伝えてください。

□□のマネージャーより



- ◆あなたは、このメッセージがとどいたらどうしますか？
どうする？

りゅう

- ◆まとめ

.....

.....

- ◆ふりかえり

.....

.....